

総合型選抜 2023 年度過去問題 作業療法学科

次の文を読んで、あとの問いに答えなさい。

さて昨今、AI^{注1)} は人間と競合する、といった文脈で語られることが多くあります。圧倒的な速さで進歩を遂げていく AI に負けてしまうかもしれないという恐怖感からか、人間は自らの「強み」を探すことに躍起になっているように見えます。

「ひらめき」は論理の積み重ねにより得られるのか否か、という問題があり、人々は「ひらめき」は人間の「強み」であり、最後の砦のように持てはやします。しかし、私はこの考え方にはあまり賛成できません。

たしかに、ごく少ない過去の事例やデータから、解決策を「ひらめく」ことができるのは、人間の「強み」と言えるかもしれません。現時点では、という条件つきにはなるでしょうが。

さらに言えば本質的に、この「強み」には限界があります。どんなに「ひらめいた」と思っても、だいたい誰かしらは、同じようなことを考えています。研究者はそれを特によく知っているはず。すごい「ひらめき」だと思っても、世界の中では5人くらいは同じようなことをひらめいているし、すでに誰かが同じことを始めていて、進めている可能性すらあるのです。

ひらめいた瞬間は楽しいし、興奮もあるでしょう。しかしその「ひらめき」が社会で評価されるかどうかというのは別の問題。AI に負けるかもしれない、という不安のあまり、「ひらめき」の楽しさと、その実効性を混同するという単純なトリックに、人間は引っかかりやすくなっています。これが今、多くの人が陥っている状態かもしれません。

数年前に、囲碁棋士の李世乭^{イセドル}と、コンピュータ囲碁プログラムの AlphaGo との対戦がありました。第3局までは AlphaGo が勝利を収めました。しかし第4局で AlphaGo は、難局を回避するため、人間の棋士ならば常識的には打たない奇妙な手を打ったのです。勝機を見いだした李世乭は、AlphaGo に打ち勝ちました。

人間と AI の差がいちばん出るところがこのような局面でしょう。人間の場合は、これまでのデータを超える絶妙の一手をひねり出したり、逆に不利を認めて投了したりします。

しかし、AI はそうではありません。目先の難局を避けるためにごく短期的な予測に基づいて奇妙な手を打ってしまうことがあるのです。結局、そこから総崩れになって負けていくパターンになるといいます。

AlphaGo 以外にも、別の AI がやはり奇妙な手を打ち、自滅するという現象が起こりました。開発者にとっては、AI がこのような部分を克服できるのかどうかというのが課題となるのかもしれません。

ただし、AlphaGo が使っているディープラーニングの手法は、過去と比べるとだいぶ人間に近づいているとも言われます。奇妙な手を打ったというのは、データの蓄積が足りず不確実な選択肢の中から無理やり答えを出したからと考える技術者もいます。

とすれば、これからデータは蓄積されていく一方ですから、AI は正確な答えをより速く、確実性を増して出せるようになってくるでしょう。過去のデータが十分にある状態なら、AI は圧倒的な威力を発揮します。人間の「ひらめき」など、簡単に^{りようが}凌駕してしまいます。

しかしすでに、人間と AI が競合する、という軸で語るのがそう妥当ではないということを多くの人が感じ始めているのではないのでしょうか。むしろ、AI の力を借りながら、互いの「強み」と「弱み」を知り、協調して発展しよう、という建設的な議論を始めるべきときだということを人々が感

じつつもどうしてよいのかわからない、という状態ではないかと思われます。

新しく、未知の要素も多く、それでいてわれわれに近い機能を持つ存在は、不安の強いわれわれ人類にとっては、恐怖感を煽られてしまう相手かもしれません。が、本来、人工知能は、われわれの生活をあらゆる面で豊かにするために開発されてきた存在のはずです。

脳の進化の歴史をたどれば、人間は合理的に考えることのできる知性を発達させることで繁栄もしてきましたが、その合理性を適度に抑えることで - つまり、適度に鈍感であり、忘れっぽく、愚かであり続けることによって - 集団として協調行動をとることが可能になりました。

それが、今日まで人類が発展を続けることができた大きな要素だったのではないかと考えることができます。果たして、合理性だけが発達した人間は、どのように扱われるのでしょうか？彼らは、異質なものとして人間社会からは排除されてしまうのです。

ただ、その人間がつくり出した合理性の塊が人工知能だとすれば、これは人間の不合理性とは補完的に働き、強力なパートナーシップを築くことも可能性としては十分にあり得ます。AI との勝負、などと煽るつまらないビジネスをしている場合ではなく、このディレクション（使い方）ができるかどうかこそが人類の課題と言えるでしょう。

（出典：中野信子『空気を読む脳』，講談社，2020 年，196-200 頁より引用，一部改変）

注 1）AI : Artificial Intelligence（人工知能）の略

問 1 筆者の考えを 400 字以内で要約しなさい（字数には句読点を含む）。

問 2 筆者が下線部で述べている、“AI に負けるかもしれない・・多くの人が陥っている状態”とは、どのような状態だと思いますか。「AI」「ひらめき」「強み」の 3 つのキーワードを含めて、あなたの考えを 200 字以内で述べなさい（字数には句読点を含む）。

問 3 今後、リハビリテーションや作業療法の分野で AI がどのような役割を果たせると思いますか。あなたの考えを 200 字以内で述べなさい（字数には句読点を含む）。